

調査員だより

通巻：第5号

平成19年3月

農林水産省大臣官房
統計部

目次

- 1 旬のやさい：春キャベツ
- 2 地域で頑張る統計調査員
- 3 こんなことが分かる：食品ロス統計調査(世帯調査)
- 4 平成19年度に実施される主な統計調査



(ヒアシンス)

旬のやさい：春キャベツ



●キャベツはアブラナ科の一年または二年草で、その仲間にはブロッコリー、大根、白菜等があります。

●日本へは、玉を作らないキャベツが江戸時代にオランダから伝えられ、観賞用とされていました。現在食べられている結球型のキャベツは江戸時代末期に輸入され、明治初期に栽培され始めました。

●キャベツは四季を通じて多くの品種が作られているため、1年中食べることができます。特

春キャベツの収穫量の多い上位5県(平成18年産)

順位	都道府県	収穫量 (t)	割合 (%)
	全国計	345,000	100
1位	千葉	57,400	17
2位	神奈川	52,100	15
3位	茨城	39,000	11
4位	愛知	32,000	9
5位	兵庫	17,100	5

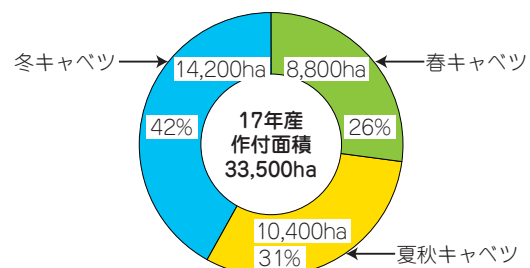
資料：農林水産省「平成18年産春野菜の作付面積、収穫量及び出荷量」

に春キャベツは黄緑色を帯びてみずみずしく柔らかいため、生食に向いています。

●ビタミンCが豊富で、ビタミンUは胃腸病に優れた効能があり、潰瘍の予防や治療に効果があります。

●春キャベツの平成18年産の収穫量は約35万tで、千葉県が全国の17%を占めています。なお、春野菜の中ではジャガイモ、トマトに次いで第3位の収穫量となっています。

●17年産の収穫時期別の作付面積を見ると、冬キャベツが全体の43%、春キャベツは26%を占めています。



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

地域で頑張る統計調査員

農家の相談役にもなります！



長 沼 陽 子 さん

東北農政局
村山統計・情報センター
新庄庁舎

Q 統計調査員を引き受けられたきっかけは？

統計・情報センターでパートや調査補助者として働いていました。

その後、統計調査員のお話があり、安易な気持ちで引き受けてしまいました。

Q これまでにどんな調査を担当されましたか？

平成16年度に初めて畜産統計調査と花き調査を担当しました。現在は、畜産統計調査を引き続き担当しています。

Q 調査を担当して良かったこと、苦勞したことは何ですか？

農業のことをまったく知らなかったので、手引をよく読みましたが、調査時にいろいろな質問があり、手引の内容だけでは返答に困ってしまうことが度々でした。

また、担当地区が日本でも有数の豪雪地帯のため、吹雪で道路が全く見えなかったり、調査では牛舎に行くことが多く、場所を地図で探し出すことが困難なときも多々ありました。

Q 調査で気をつけている点、工夫している点がありますか？

訪問するときは服装が派手にならないようにしたり、言葉遣い等にも気をつけています。

また、留守の農家には自分なりの言葉で挨拶文を添えて置いてきて、後で必ず電話連絡をし、信頼関係が保てるよう心掛けています。

Q 統計調査員の仕事の魅力は何ですか？

調査以外にも農家の方の話を聞いてあげたり、いろいろな相談にのってあげたりして感謝されることです。農業についていろいろな関心を持てるようになりました。

センターからの一言

長沼さんには、調査補助者としてもお世話になっており、業務においては職員を凌ぐようなノウハウを身につけ、調査前の段取りから報告まで効率的で適切な仕事を行っていただき、職員一同頼りにしております。

こんなことが分かる：食品ロス統計調査（世帯調査）

— 47.3g —

この47.3gという数字は平成17年度の世帯における1日1人当たりの食品ロス量です。

3人家族だと、毎日ごはん1杯分(約150g)を捨てていることになります。

食品ロス量の内訳をみると、だいこんの皮の厚むき等による過剰除去が50%、次いで食べ残しが28%、賞味期限切れや料理の失敗等で食

べずに捨てた直接廃棄が22%となっています。

また、食品類別でみると、野菜類が43%と最も多く捨てられています。

右のグラフは、食卓に出した料理を食べ残した理由で、「料理の量が多かったため」が72%と圧倒的に多く、次いで「嫌いなものが含まれていたため」となっています。

地域で頑張る統計調査員

広範囲に活躍する期待度大の統計調査員



田上文蔵さん

九州農政局
熊本統計・情報センター

Q 統計調査員を引き受けられたきっかけは？

町役場に出かけたときに統計調査員募集のポスターが掲示してあり、自分にも出来そうだと思う、農政局のホームページから応募しました。

Q これまでにどんな調査を担当されましたか？

最初に畜産統計調査を担当し、その後、農業構造動態調査、水産加工統計調査を担当しました。

Q 調査を担当して良かったこと、苦労したことは何ですか？

畜産統計調査では、後継者のことなどを含め畜産業の第一線の方のお話が聞けて大変勉強になりました。実際の調査では、子牛の生まれた日を几帳面に書いておられる農家がある一方で、そうでない農家では、自分で頭数を数えたので

時間がかかって大変でした。

Q 調査で気をつけている点、工夫している点がありますか？

統計調査に携わってまだ日が浅いので特に工夫していることはありませんが、田舎の方の多くは話好きなので、さっさと自分の用件だけを済ませるといふスタンスではなく、相手の話を聞いてからこちらも話をする方がお互いの信頼感が増すので良いと思ひ心がけています。

Q 統計調査員の仕事の魅力は何ですか？

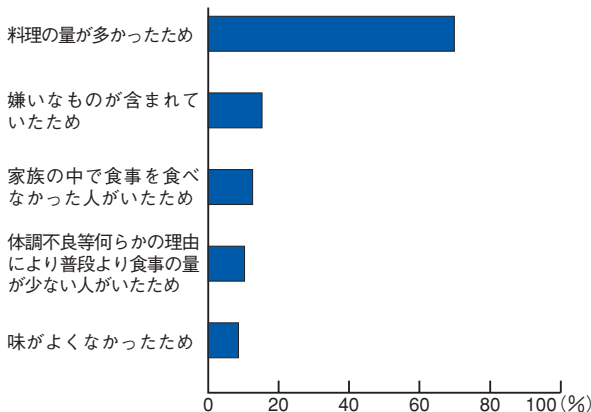
日本農業の現状を調べておくことは将来のことを考える上でとても大切な作業だと思います。そのため調査の精度を高めていくことが重要であるという自覚ができ、調査を頑張れることです。

センターからの一言

田上さんは、当センター管内の広範囲(特に遠隔地)にわたって調査を担っていただいています。

農林水産業についての関心度・理解度も高く、今後の活躍が非常に期待される方です。

食事を食べ残した理由 (複数回答)



日本は食料の多くを外国から輸入しており、食料自給率は40%しかありません。

そのため、少しでも食べ物の無駄をなくしていくよう心がけていくことが大切です。

この食品ロス統計調査(世帯調査)は、四半期(3ヶ月ごと)に調査することになっています。

3月にも調査を行いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



平成19年度に実施される主な統計調査

調査名	調査時期	調査名	調査時期
農業物価統計調査	毎月	産地水産物流通調査	毎月 年1回(平成20年1~3月)
海面漁業生産統計調査 (稼働量調査)	毎月	牛乳製品統計調査 (基礎調査)	平成20年(1~2月)
冷蔵水産物流通調査	毎月	水産加工統計調査	平成20年(1~2月)
生鮮食料品価格・販売動向調査	四半期(19年6月、9月、 12月、20年3月)	畜産統計調査	平成20年2月
食品ロス統計調査 (世帯調査)	四半期(19年6月、9月、 12月、20年3月)	農業構造動態調査	平成20年2月
作物統計調査	主な各作物の収穫期	海面漁業生産統計調査 (漁獲・養殖収穫統計調査)	平成20年(1~3月)
特定作物統計調査	各作物の収穫期	内水面漁業生産統計 調査	平成20年(1~3月)
面積調査	平成19年(6~7月)	<div style="text-align: center;">お知らせ</div> <p>統計調査員の皆様に担っていただき平成19年度の主な統計調査は表のとおりです。調査時期は地域によって異なりますので、調査の時期、内容、方法などについて詳しくお知りになりたい場合は、最寄りの統計・情報センターまでご連絡ください。</p> 	
食品循環資源の再生利用等実態調査	平成19年(6~7月)		
担い手動向調査	平成19年7月		
食品流通段階別価格形成調査	平成19年(10~11月)		
漁業就業動向調査	平成19年11月		
木材統計調査 (基礎調査)	平成19年12月		

※ 「面積調査」と「担い手動向調査」は平成19年度から新たに統計調査員の皆様に担っていただく調査です。なお、「作物統計調査」及び「特定作物統計調査」には、**調査補助者の業務**(水稻調査等)も含まれます。

最寄りの統計・情報センター

担当者

TEL

◆ 編集・発行 ◆

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省 大臣官房 統計部 統計企画課 調査改善班

電話 03-3502-8111 (内線2661~2663)、FAX 03-3501-9644

